

令和5年度指定管理者運営状況検証シート

1 施設名等

令和6年3月31日現在

施設名 (設置年月日)	愛媛県県民文化会館 昭和61年4月13日(別館開設平成18年7月16日)	所在地 電 話	愛媛県松山市道後町二丁目5番1号 089-923-5111 http://www.ecf.or.jp/m_facilities/index.html		
県所管課	観光スポーツ文化局文化振興課	指定管理者の名称	公益財団法人 愛媛県文化振興財団		
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日(5年間)	利用料金制	○	あり	なし

2 施設の概要と指定管理者が行う業務等

設置目的	県民の文化の振興を図るため、各種の行事又は集会の用に供する。	施設の外観	
施設内容	メインホール(2725席)、サブホール(912席)、多目的ホール(真珠の間)、リハーサル室(4室)、楽屋(27室)、会議室(9室)、別館会議室(11室)、駐車場(本館295台、別館15台)		
指定管理者が行う業務	①会館の事業の実施に関する業務 ②会館の利用の許可に関する業務 ③会館の利用に係る料金の収受に関する業務 ④会館の利用の促進に関する業務 ⑤会館の施設、附属設備及び備品の維持管理に関する業務 ⑥その他知事が定める業務		
施設の管理体制	<p>(公財)愛媛県文化振興財団</p> <pre> graph LR A[理事長] --- B[事務局長(正規)] B --- C[部長(正規)] B --- D[部長(正規)] C --- E[担当(正規3、県派遣2、臨時2)] D --- F[担当(正規2、再雇用3、臨時3、人材派遣4)] </pre> <p>(総務事業部) (施設管理部)</p>		

3 検証のための指標の推移

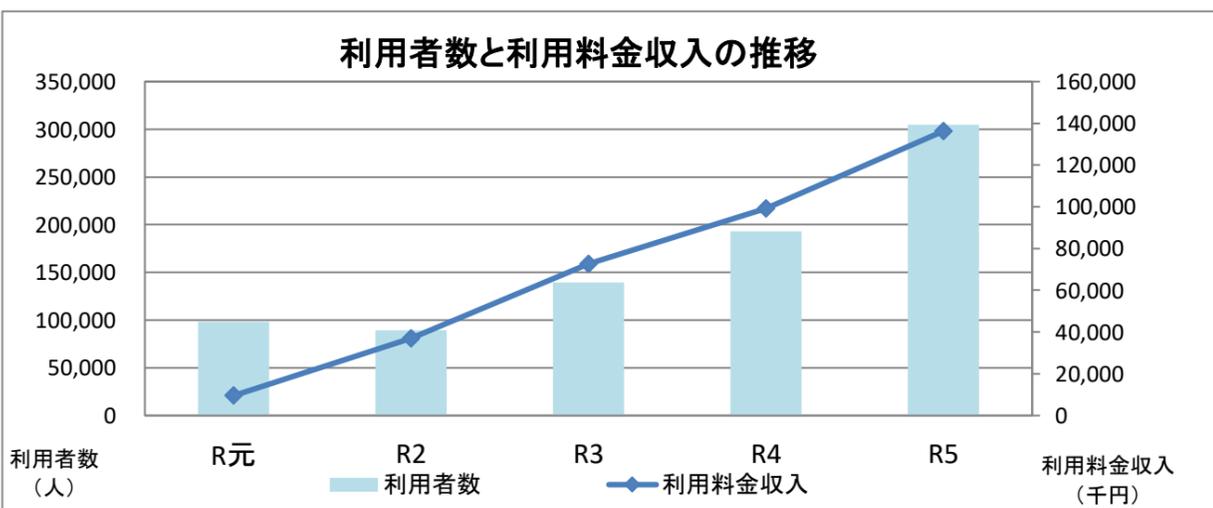
(1) 利用者数

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
年間利用者数	98,270 人	89,430 人	139,400 人	193,000 人	304,940 人

(2) 収支状況

年 度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収 入 (A)	175,734 千円	286,665 千円	330,022 千円	378,265 千円	368,092 千円
委託料	139,952 千円	142,909 千円	153,473 千円	162,230 千円	224,219 千円
委託料(補正額)※	7,942 千円	105,414 千円	102,407 千円	110,255 千円	0 千円
利用料金収入	9,508 千円	36,997 千円	72,675 千円	99,208 千円	136,267 千円
その他収入	18,332 千円	1,345 千円	1,467 千円	6,572 千円	7,606 千円
支 出 (B)	175,734 千円	286,665 千円	330,022 千円	378,265 千円	368,092 千円
事業費	4,574 千円	5,239 千円	4,492 千円	12,091 千円	6,336 千円
維持管理費	75,956 千円	149,752 千円	175,786 千円	205,745 千円	179,625 千円
人件費	57,364 千円	77,626 千円	86,021 千円	86,228 千円	90,998 千円
その他支出	37,840 千円	54,048 千円	63,723 千円	74,201 千円	91,133 千円
収 入 (A) - 支 出 (B)	0 千円				

(※)新型コロナウイルスの影響等により、補正予算で増額した委託料を記載



(※2) 収支状況に大きく影響を及ぼした要因があった場合、その内容

令和元年度は、大規模改修により本館が休館していた。利用者数・利用料金収入ともに、令和2年度以降、新型コロナの影響による休館やイベント中止のため大きく落ち込んだ。
令和5年度は、新型コロナ感染症が5月8日から5類に移行し、会館の利用促進に取り組んだ結果、前年度に比べ利用料金収入が99,208千円から136,267千円に増加した。
※委託料には設備改修等経費を含む。
※令和5年度は、委託料のうち管理運営分に物価高騰等に伴う必要額が上乗せされており195,562千円、設備改修分は避難器具・消火器更新や別館外壁タイル修繕、厨房設備機器清掃・修繕等で28,657千円、計224,219千円となっている。

4 管理運営の評価

(1) 提供サービスや利便性の向上のための取組み

指定管理者の自己検証	県施設所管課の検証	評 価
<p>○ロビーでの無料無線 LAN サービスのほか、県民広場を大規模催事の駐輪場として解放したり、休館日・年末年始のホール利用を受け付けたりするなど、利用者の要望に応えるとともに、ホール仮予約期間を4年先までとすることで、全国大会など長期計画の必要な催事にも対応している。</p> <p>○新型コロナウイルスの5類移行を受け感染対策を緩和しつつも、主催者の自主的感染対策を呼びかけ感染防止の啓発を行った。</p>	<p>県下最大のイベントホールとして、4年先までの仮予約の受付を可能とし、参加者層に対応して駐輪場として県民広場を開放するなど、大規模イベント受入れのために柔軟に対応していることは評価できる。</p> <p>利用料金についても、午前・午後・夜間・全日の区分のほか、時間単位での予約にも対応しており、利用者の利便性向上に努めている。</p>	A

(2) 施設の適正な維持管理のための取組み

指定管理者の自己検証	県施設所管課の検証	評 価
<p>○各専門委託業者等と連携し、館内外の清掃・警備・保守点検を実施し、適正な施設維持管理に努めた。また、故障等に迅速に対応し、催事への支障が最小限となるよう適切に修繕を実施した。</p> <p>○避難器具更新・消火器更新、トイレ及び手洗水栓改修、別館外壁補修など施設機能維持のための修繕を行った。</p> <p>○レストランの入居に向け、厨房まわりの洋式トイレのウォシュレット化を進めたほか、自動水栓・厨房設備機器の整備を行った。</p>	<p>開館後38年を経過しており、老朽化のため故障や修繕に対する対応が必要な状況であるが、不具合発生時の報告や修繕を適時行い、予算の範囲内で施設の維持管理が適切に行われるよう努めていることは評価できる。</p> <p>館内には老朽化に伴う大小多くの修繕等が必要な箇所があるため、施設を維持管理する指定管理者の視点で、中長期的な観点から優先順位をつけ修繕対応や予算化の提案が行われることを期待する。</p>	A

(3) 利用者からの評価と、意見を反映させるための取組み

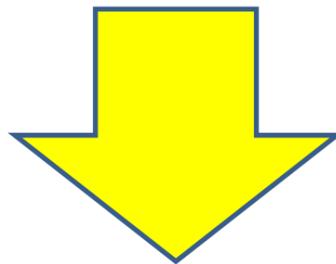
指定管理者の自己検証	県施設所管課の検証	評 価
<p>○外部委員による運営委員会を開催し外部の意見聴取をしたほか、令和4年度利用者(主催者)525件に対しアンケート調査を実施し(回答数190件)、概ね良好な評価をいただいた(「まあまあだった」以上が99%)。また、目安箱を設置し利用者の生の意見を取り入れるようにしている。</p> <p>○老朽化し苦情の出ている展示パネル40台を購入整備した。同様に傷みの激しい机・椅子・仮設舞台や、要望の強いWi-Fi整備・トイレのウォシュレット化についても、早期更新に向け引き続き県所管課と予算化の協議をしていきたい。</p>	<p>会館利用者へのアンケート調査の実施や外部委員からの意見聴取を行い、要望の多いものは予算化の提案を行うなど、会館運営への反映に努めていることは評価できる。</p>	A

(4) 施設関連情報の発信のための取組み

指定管理者の自己検証	県施設所管課の検証	評 価
<p>○ホームページやX、Instagram、noteなどのSNSにより、施設関連情報を積極的に発信したほか、掲示板、チラシ等も活用し、会館の催事・植栽管理等の情報をタイムリーに発信している。</p> <p>○令和6年度からは、株式会社エス・ピー・シーとのコンソーシアムにより、新たに5年間の指定管理者(えひめ文化振興コンソーシアム)となることから、より効果的な情報発信に取り組むたい。</p>	<p>ホームページやSNSを活用し、イベント情報や文化事業の案内、施設利用に関する情報等を定期的に発信しており、評価できる。</p> <p>今後、コロナ禍の影響による利用減からの回復のため、利用者ニーズを捉えながら、より一層利用者増・収入増につながる広報・PR活動が積極的に行われることを期待する。</p>	B

【評価基準】

- S・・・仕様書等で示した基準以上の顕著な成果が挙げられており、指定管理者制度導入の効果が特に認められるもの
- A・・・仕様書等で示した基準以上の成果が挙げられており、指定管理者制度導入の効果が認められるもの
- B・・・仕様書等で示した基準と同程度の成果が挙げられているもの
- C・・・仕様書等で示した基準をおおむね満たしているが、一部工夫や改善を期待するもの



(5) 指定管理者制度の導入による効果と課題の検証

県施設所管課の総括
<p>(公財)愛媛県文化振興財団としてこれまで蓄積したノウハウを活かして、ダンスや芸術鑑賞事業などの文化事業を実施し、イベント・公演の誘致等も積極的に行ったほか、老朽化した施設の維持管理や修繕を適切に実施するなど、現指定管理者の特性と経験を活かして文化施設の管理運営を行っていることは制度導入の効果があったものと認められる。</p> <p>今期は新型コロナウイルス感染症による影響から大きく利用状況の回復が見られたが、未だコロナ以前の水準(利用者約65万人)に満たない状況であり、その要因の一つとしてWEB会議など対面によらない催しの形態が普及し実際に来館する人数が想定より伸びていないことが考えられる。</p> <p>新たな利用者ニーズを捉え課題を把握することで施設の魅力向上に取り組み、積極的な広報・PRを展開するなど、PDCAサイクルを回して利用者増・収入増に繋げていくことが課題である。</p>